

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 ズリアガ カルダ アルバ

起業（entrepreneurship）が各国の経済に与える社会・経済的正の影響については良く認識され、また論じられてきた。起業は雇用を創出し、国富を増やし、革新的製品やサービスを世に送り出している。起業は生活の質を高め、経済的自由度を広げ、生産性を高めると同時に、その波及効果は経済成長に正の連鎖反応を引き起こしている。本論文はこのような認識に基づき、起業家と起業による価値創出のより良い支援の形態について理解しようとしている。

本論文の第一の目的は、新規事業創出を担う起業家の特性について深い洞察を加えることであり、そのより良い理解と支援のために起業家の資質、動機、意図について調べることである。また第二の目的は、起業エコシステムについて、すなわち起業家が事業を創出し、事業を成長させ、エクジットさせて、起業を成功に導くための環境的な成立条件と支援メカニズムを明らかにすることにある。起業エコシステムの動的成長と価値創造を理解することは、起業支援のための支援メカニズムの重点課題を策定する際にも不可欠である。さらに第三の目的として、起業エコシステム関係者の政策策定指針に資する起業家と起業エコシステムに対するより深い理解を提供することにある。

第1章では、起業家と起業家精神の概念を整理し、それらが誘引する社会・経済的利点について概観し、それらをもとに本論文の動機と目的を設定している。さらに研究課題を抽出して適用する研究手法を体系的に整理している。

第2章では、起業と価値創出の担い手である起業家の役割について考察している。起業家を目指す指向に影響を与える因子が何であることを調査し、起業家になるという意志決定の背後にある複雑な要因について分析している。新しい指標である「起業家への距離（entrepreneurial distance）」を本論文で導入し、本人がそれを自覚する以前において将来の起業家を識別することを試み、将来起業家を目指す際にどのような支援が有効か個別に分析している。この章のまとめでは、起業家は重要な要素であるが、その存在だけでは価値創造のメカニズムを説明できないとしている。

第3章では、まず起業エコシステムの概念形成、特に知の蓄積、工業地域別

特性、クラスター形成、イノベーションシステムとビジネスシステムについて、先行研究を調査し、起業エコシステムの構成要素について詳細に記述している。起業エコシステムの成長過程を次章以降でモデル化するために必要となる要件、すなわち新規事業が生き延びて成功するための主要要件が何であるかを考察して抽出している。

第4章では、起業エコシステムのモデル化に向けてシステムダイナミックスの手法を用いることの合理性と有用性について述べている。モデリングの目的を明示してモデルの条件設定を行い、因子間の関係を数理的に記述してモデルの構築を行い、実データを用いてその妥当性を検証している。

第5章では、さまざまなシナリオと政策策定方針を設定し、第4章で開発したシステムダイナミックモデルを用いて、それらが起業エコシステムの成長を促進し、あるいは阻害する様子を分析している。シリコンバレー、ボストン、ニューヨーク、ロサンジェルス、ロンドン、ベルリン、北京、バンガロール、エストニア、日本を各地域起業エコシステムとして設定し、各地域における価値創出過程と政策決定により引き起こされた結果を分析している。以上の実証的検討からモデルの有効性が検証されたことにより、シナリオの差異が起業エコシステムの成長にどのような影響を与えるか分析できるようになった。資源の利用が制限される条件、成長を加速あるいは阻害する政策の存在、起業家指向の大小、新規事業数の枯渇あるいは加速、歴史的条件等、シナリオの違いが起業エコシステムの成長に与える影響を分析している。

第6章では、本論文で設定した研究課題に対する回答について議論してまとめ、さらにこの研究で導かれた技術革新への政策的含意について述べている。本論文の研究成果と議論をまとめ、学術的有用性とその適用限界について言及して結論としている。

以上、本論文は新規事業創出を担う起業家の特性について深い洞察を加えており、起業家の資質、動機、意図について検討している。さらにシステムダイナミックスの手法を適用して、起業エコシステムの環境的な成立条件と支援メカニズムを明らかにすることにより、起業家と起業エコシステムに対するより深い理解を提供している。

よって本論文は博士（学術）の学位請求論文として合格と認められる。